



Founded 1974

追悼の辞

2017年11月10日

かねてより入院療養中の当学会前理事長の隅田幸男先生が11月1日に亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

2017年7月下旬、銀座のクリニックの書庫にある雑誌「Cryobiology」を初刊から引き取ってほしいとのことで相談され、中央区銀座3-10-15 東銀2ビル6Fの隅田幸男クリニックを訪れました。その時先生の左首腫張に気づきましたが、先生は「歯を抜いてから調子が悪い。」と言われていました。別室にて秘書の北村さんより、のどの奥に腫瘍があって転移もあるとの話を聞きました。数日後の7月17日に母校である東邦大学医療センター大森病院に緊急入院となりました。

隅田先生は1964年東邦大学医学部大学院卒業され、東邦大学第一外科に助教として入局され、1968年には九州大学医学部第二外科に移られています。ご専門は心臓外科で、国立福岡中央病院（現国立病院機構九州医療センター）の胸部心臓血管外科をベースとして1999年に定年退官まで国内外で術者として飛びまわられています。消化器外科、特に肛門外科についての造詣も深く、隅田クリニックでは主に肛門の手術をされていました。エンドトキシンショックを始めとするショックの研究もありますが、隅田先生といえば冷凍血液です。

1965年、日本で初めて、冷凍血液の臨床応用が東邦大学第一外科で行われております。隅田先生はその中心人物で1967年12月9日発行のLANCET Volume 270にSerum hepatitis from frozen bloodという論文を書かれています。先生は「Cryobiology」という国際学会に属し、1969年ワシントンDCで開催された第5回大会より継続的にこの会に参加され、この学会のフェローとなられています。1974年日本低温医学会を立ち上げられ、自らが第一回の会長をされています。日本低温医学会の定時総会は今年の10月で44年となりましたが、定期刊行雑誌の発行も含めすべて隅田先生が主導で運営されてきました。

International Society of Cryosurgery (ISC)・世界凍結手術学会には、隅田先生は1977年バルセロナで開催された第3回より連続して参加されており名誉会長に成られていますし、この会のトップメンバーでもありました。

今年のISCは9月にリトアニア・カウナスで開催されました。開催場所の設定は先生が中心になって行っており事前訪問もされていました。隅田先生のお名前でも2演題が出されておりましたが、体調不良であったことより、私が変わって先生の作られたスライドを使っ



Founded 1974

て、何とか発表いたしました。凍結手術の歴史に関する演題と長期保存しておいた皮膚組織より脂肪由来のメゼンカймールセルを培養しえたとする演題で、これら内容は私にとっても大変ためになるものでありました。

東京の中心、銀座のクリニック内で細胞培養をするバイタリティーにはクリニックを訪れた多くの医療者が刺激をされました。2015年には日本輸血・細胞治療学会より村上記念賞を授賞されております。先生は英語もドイツ語も堪能で、海外には多くの支持者がいます。

10月28日に鴨川で開催された第44回日本低温医学会の会合のあと、銀座の隅田先生なじみのお寿司屋さんで先生主催の会合が開催されました。Xu Kecheng 教授や Nikorai Korpan 教授など海外の人も集まる中で、入院中の先生はご家族に付き添われて、介護タクシーに乗って参加してくれました。海外の人々の要望にお応えして、我々を元気づけるメッセージを英語で何枚も書いてくれました。11月1日、一時止まっていた口腔よりの出血が始まり、これが原因で先生は亡くなりました。

まだまだ色々ご教示いただきたいことが山ほどあったのに、もうそれも叶わなくなってしまいました。我々は先生からお教えいただいたことを深く心に刻み、今後とも学会が発展するよう頑張っていきます。どうぞ見守っててください。

日本低温医学会 理事長

東邦大学医療センター大森病院 医療安全管理部 教授

渡邊正志

